

令和5年第2回公安委員会会議録

日時	1月26日（木曜日） 自午後 1時30分 至午後 4時50分	場所	公安委員会室
会議	公安委員	小野委員長 廣塚委員 宮尾委員 甲斐委員 吉田委員	
出席者	警察職員	本部長 警務部長 生活安全部長 刑事部長 交通部長 警備部長 情報通信部長	

第1 聴聞等についての決裁

運転免許課長から、聴聞5件、意見の聴取31件について説明があり、決裁が行われた。

第2 定例会議

1 令和4年中の交通事故発生状況について

(1) 交通事故発生状況（暫定値）

【熊本県】

	令和4年	前年比	増減率
発生件数(件)	3,175	-13	-0.4%
死者数(人)	53	14	35.9%
負傷者数(人)	3,927	-9	-0.2%

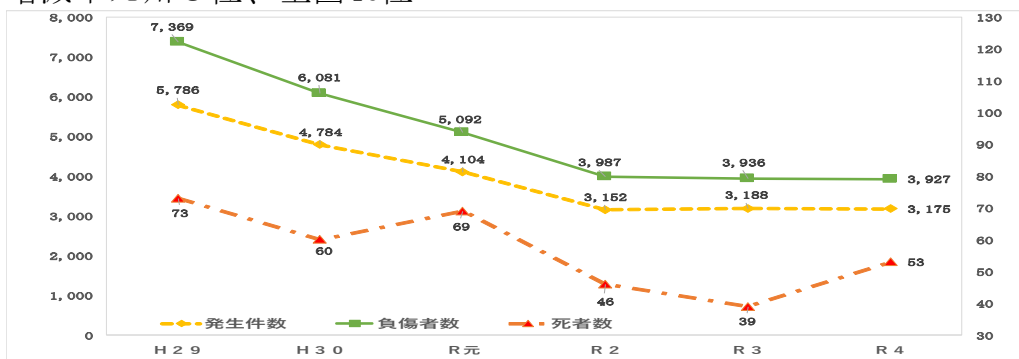
- 死者数は、前年比+14人で3年ぶりに増加
- 発生件数、負傷者数は減少(負傷者数は18年連続)
- 飲酒運転による死亡事故が2年ぶりに発生

【全国・九州の死者数】

	死者数(人)	前年比(人)	全国順位	九州内順位	増減率	全国順位	九州内順位
全国	2,610	-26	-	-	-1.0%	-	-
九州	福岡	75	-26	2	1	-25.7%	3
	佐賀	23	0	24	4	0.0%	24
	長崎	28	1	30	5	3.7%	29
	熊本	53	14	45	8	35.9%	46
	大分	32	-4	17	3	-11.1%	13
	宮崎	32	2	34	6	6.7%	35
	鹿児島	42	-5	15	2	-10.6%	15
	沖縄	34	8	41	7	30.8%	45
合計	319	-10	-	-	-3.0%	-	

- 全国の死者数は減少
- 死者数
- ・ 増減数九州8位、全国45位
- ・ 増減率九州8位、全国46位

【県内発生状況の推移】



(2) 月別の死者数 ※ () 内は前年比

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和4年	1 (-2)	7 (+4)	4 (-1)	2 (±0)	4 (+1)	7 (+3)	4 (+1)	5 (+4)	2 (+2)	8 (+1)	1 (-3)	8 (+4)	53 (+14)
	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			
令和4年	12 (+1)			13 (+4)			11 (+7)			17 (+2)			

- 月別では、10月、12月が8人で最多
- 下半期（特に8月、12月）に大きく増加
- 四半期ごとでは、全ての四半期で前年を上回る結果（特に第3四半期の増加が大きい）

(3) 年齢別・状態別の死者数 ※ () 内は前年比

	歩行者	自転車	二輪車	自動車		その他	合計
					うち非着用		
20歳未満	0 (-1)	0 (±0)	1 (+1)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	1 (±0)
20歳代	0 (-2)	0 (±0)	1 (-1)	3 (+2)	3 (+3)	0 (±0)	4 (-1)
30歳代	1 (+1)	1 (+1)	2 (+2)	1 (±0)	0 (-1)	0 (±0)	5 (+4)
40歳代	0 (±0)	0 (-1)	5 (+4)	2 (+2)	1 (+1)	0 (±0)	7 (+5)
50歳代	0 (-1)	0 (-1)	0 (-2)	1 (±0)	1 (+1)	0 (±0)	1 (-4)
60～64歳	1 (-1)	0 (±0)	1 (+1)	2 (+1)	0 (±0)	0 (±0)	4 (+1)
65歳以上	13 (+3)	3 (±0)	1 (-1)	14 (+8)	2 (±0)	0 (-1)	31 (+9)
合計	15 (-1)	4 (-1)	11 (+4)	23 (+13)	7 (+4)	0 (-1)	53 (+14)

- 65歳以上が全死者の58.4%
- 年代別で65歳以上が最多で、増加数も最多
- 状態別では自動車が最多で、増加数も最多
- シートベルト非着用死者が増加（+4人）
- 特に65歳以上の自動車の増加が顕著（+8人）
- 歩行者はやや減少（-1人）
- 高齢歩行者は全歩行者の86.7%
- 全死者の中で車両単独による死者は18人(+10人)
（自動車12人、二輪車4人、自転車2人）

【委員からの質問等】

- 委員から、「昨年交通事故死が増えているが、何か要因があって今後特に対策をするようなことはあるのか。」旨の質問があり、警察側から、「増加の具体的な要因は特定できないが、全体としては、交通量がコロナ禍以前の状況に戻りつつあることが一番の要因として考えられる。」旨の説明があった。
- 委員から、「警察では様々な対策を推進しているが、それでも交通事故死者数が増えている。また、飲酒運転を繰り返す人もおり、そういう人達の意識を変えることも大変だと思う。その辺りの対策として何か良い手はないのか。」旨の質問があり、警察側から、「短期的に効果が出るというものは難しく、中長期的に広報啓発、取締り、交通規制等を組合せながら、地道に取り組んでいかなければならないと考えている。」旨の説明があった。
- 委員から、「今、データサイエンスが流行っており、事故についてのデータをAIや専門家の力を借りて分析すると、熊本特有の事情が出てくるかもしれない。TSMCの進出等で、今後、事故が更に増える可能性もあるので、そういう分析を踏まえた対策を考える必要があると思う。」旨の意見があった。

第3 報告・決裁等

- 1 令和5年春の組織改正の概要等についての報告
警務部参事官から報告が行われた。
- 2 交通部における年末年始の取扱いの報告の補足
交通部長から補足説明が行われた。
- 3 駐在所の統合及び新設に伴う熊本県公安委員会告示の一部改正についての決裁
地域課課長補佐から説明があり、決裁が行われた。
- 4 ストーカー規制法に基づく禁止命令等の実施状況についての報告
人身安全対策課長から報告が行われた。
- 5 苦情（R4.No.17）調査結果についての決裁
地域課課長補佐から説明があり、決裁が行われた。
- 6 苦情（R4.No.22）調査結果についての決裁
地域課課長補佐から説明があり、決裁が行われた。
- 7 令和4年第30回・第31回公安委員会会議録の決裁
公安委員会事務室から説明があり、決裁が行われた。
- 8 第4回公安委員会文書廃棄等の決裁
公安委員会事務室から説明があり、決裁が行われた。